小川町総合振興計画審議会、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
第２回合同会議
議事要旨

◆日　時：平成 27 年 8 月 26 日（木）　10：00～

◆場　所：リリックおがわ　２階会議室

◆次　第　　進行　政策推進課　矢島富男 主幹

１．開会

２．会長あいさつ　　小久保文雄 会長

３．副町長あいさつ　福田弘昌 副町長

４．議事　　座長　小久保文雄 会長

（１）総合振興計画・総合戦略に係る意見交換　　政策推進課　山﨑浩司 課長

（２）総合振興計画基本構想構成案について　　政策推進課　山﨑浩司 課長

５．その他

当日いただいたご意見を以下のテーマごとに分類整理しました。

テーマ①　人口減少・高齢化に対応したまちづくりのあり方
テーマ②　観光の振興や仕事の場づくりなど、町の活性化のあり方
テーマ③　結婚・出産・子育てをしやすい環境づくりのあり方
テーマ④　安心な暮らしを実現するためのまちづくりのあり方

テーマ①　人口減少・高齢化に対応したまちづくりのあり方

（小川町が目指すべき都市構造や土地利用／医療・高齢者福祉／公共交通／公共施設の利活用…など）

【土地利用】

◆駅周辺の開発

・小川町の人口は減っているが、駅の周辺に住宅地などを整備すれば人口が増える可能性はかなりあると思う。

・駅前の開発が必要である。物産館があると、観光客が立ち寄る場所になり活気づくと思う。駅前に何もないと小川町の外から来た人が言っていた。

・小川町駅前の開発は難しいと思う。駅前の土地は、土地を持っている人、建物を持っている人、経営している人がバラバラであり権利関係が複雑。駅北側の開発ならまだ可能性はあるかもしれない。

・世界のホンダを活かして、小川町駅前にホテルをつくってそこで会議を開催してもらうとか、駅前開発も必要ではないか。

・この建物（リリック）を建替えて上層階をホテルにするとよいのでは。

◆土地利用のあり方

・都心からくると、小川町はあまり都市化されておらずほっと感じる。ビルをただ建てればよいというわけでなく、歴史的な景観を残しつつ自然を生かすなど、小川町の良さを生かしたまちづくりをしてほしい。

・小川町に工場を建てようと役場に言ったが積極性がなく、結局嵐山に工場を建てたということを聞いた。

その誘致の対応もさることながら、農地の規制が厳しいというのも問題である。
・小川町は山が多いが、インターも近く交通の便も悪くないため、働く場を確保して定住につなげるためにも企業誘致を行うのがよいのではないか。ただ、農地の規制等の問題で土地の確保が難しく、町も積極的ではないのが問題だ。
・小川町はほとんどが市街化調整区域なので開発が進まない。今は働く場所がないから人が来ない。新しい会社が進出できるように、土地利用を考えるべきである。
・小川町の大半が市街化調整区域であり、色々な制約がある。住宅が建てやすい政策をしたほうがよい。
・建物が建てやすいようにする必要がある。ただ、守るところは守るようにしないと田んぼが歯抜けになってしまう。
・嵐山小川 IC ができたが、町への車の流れが少ないように見え、あまり活かせていないのではないか。

【公共交通】

◆バス

・幹線バスは利用客が少ないためバス交通のあり方を見直す必要がある。
・幹線バスは（東小川から〇〇まで）片道 220 円、往復 440 円という料金が年金暮らしの高齢者には少し高く、例えば一律 100 円とすれば利用しやすくなる。
・山間部等の集落への交通手段として、町内だけでなく周辺も含めてデマンドバス等を検討いただき、導入の際には幼稚園のバスのような愛着のわくようなデザインになるとよい。
・公共交通はデマンドバスが必要だと思う。図書館や赤十字病院など、主要な拠点をつなぐ路線が必要である。
・バスは高齢化が進むなかで、一人暮らしの方や高齢世帯などの通院や買い物時に不可欠となる。特に、交通不便な山あいの集落への救済措置が必要。日高のイーグルバスが高麗団地で実施している巡回バスのように、路線バスよりも細かい交通網の検討が必要と思う。
・公共交通は福祉の面で必要性はあると思う。若い人が高齢者等の移動を支援する、NPO のような方法でできるとよい。
・ＮＰＯとして、過疎地の元気な高齢者の送迎もできなくなってしまった。困っている人を助けるのがどうしてできないか。タクシー業界など利害関係があるのはある程度理解できるが、工夫してほしい。

◆鉄道・駅

・若い人からは、東武東上線の池袋発の終電が早すぎるので、せめて夜 12 時頃になるとよいという意見、また、複線化による運行本数の増加を望む意見をよく聞く。
・交通の便が悪いので、電車を複線化しもっと早く行けるようにしてほしい。
・公共交通について、電車の複線化を望む。
・北口があると便利との声をよく聞くし、まちの活性化につながると思う。
・駅が新しくなるのなら、小京都らしい、和紙のまちという感じがでるデザインになるとよい。

【公共施設】

・ＮＰＯをやっているときに、下里分校を活用しようと思って教育委員会に掛け合ったが、分校の校舎を貸せないと言われた。また学童の職員の駐車場として隣接地を借りようとしたができなかった。もう少し有効活用したほうがよい。
・使われていない公共施設の今後の利活用として、高齢者向けの運動施設にしてはどうか。

【医療・福祉】

・小川町は医療が恵まれていると思う。ドクターヘリも来るし、小川赤十字病院もあり、いざというとき助かる。
・保健師を増やし、いろいろな場所に派遣し塩分チェックを強化してはどうか。
・高齢化の問題に対して、高齢者は自ら健康管理をすべき。また地域等で共助の取り組みを促進すべき。健康なお年寄りの活躍の場として、ボランティア等で活躍していただく枠組みを作っていったらよいのではないか。
・一人暮らしの高齢者がケガや病気等にあった時の心配がある。
・民生委員は一人暮らしの高齢者をよく訪問しているが、家族もあまり来てくれず、誰か来てくれるのを心待ちにしている人が多いようである。地域のなかで、そうした方の支えとなる仕組みができるとよい。
・町外から新規就農したいという人が増えており、そうした人が高齢世帯を見守るしくみがあるとよいのではないか。例えば訪問記録をノートに書いておけば次に訪問した人にも伝わる。新規の人と地元の人との親しい関係づくりにもつながると思う。
・牛乳の宅配などをしていることはよいことだと思う。お年寄りの安否確認にもつながる。
・高齢者向けの介護サービス付きの住宅建設に町が補助するようなしくみもあるとよい。住宅に和紙をつかってもらえば PR にもなる。
・福祉施設ができれば、雇用を増やすことにもつながる。

【その他】

・公園について、自分たちでふれあい広場を作り維持管理を行っている。住民たちのモラルが大切で、遊ぶ場所がないというのではなく、自分たちで遊ぶ場所を自分たちで維持管理することが大切である。
・ハード整備もわかるが、まずは人と人のつながりや助け合いなどのソフト面の充実に力を入れるのがいいのではないか。
・今後、コンパクトシティを考える際に、ＩＣＴも一緒に考えていかなければいけない。
・コンパクトシティの考え方について、山間部のお年寄り等はどうするのか。

テーマ②　観光の振興や仕事の場づくりなど、町の活性化のあり方

（農業・商業・工業・観光などの産業振興／雇用の創出／豊かな自然環境の保全／地域の景観や歴史文化の保全・活用…など）

【町の産業】

◆和紙

・和紙について、和紙の技術だけでなく、商品化して付加価値をつけ、汎用性をアピールすることが大切である。小川町オリジナルの商品化が必要。また、そのための拠点や紙を使ったイベントの実施も必要である。
・和紙でウェディングドレスや着物などをつくって PR してはどうか。
・細川紙は後継者が少なく先行きが心配。担い手を増やしていくことも必要。
・和紙の工房で体験やイベント等を協働でできるとよい。

◆農業

・農業体験ができるようにする。農家民泊も合わせたい。
・果樹園を作ってオーナー制にするなど、農業に力を入れるべきである。
・花桃を植えるのはよいかもしれない。ただ本腰を入れないと難しい。
・今後、人口増は難しいため、人口が減っていく中でどううまくやっていくかが大切である。例えば、シルバー人材センターで空き地を有効に活用して農業をやってみるとか、生産性をつくることが今後大切になってくると思う。

【観光】

・町として観光コースを設定し、仕事を生み出し活性化を図ることが大切である。例えば、果物を栽培し、観光拠点をつくる。仙元山～八幡台～竹沢のコースなど市街地にも回遊するコース設定をするとよいかもしれない。また未完成のゴルフ場も活用できないか。フルーツの苗木を栽培・管理し、販売する方法もある。
・観光客向けのバスとして、吉田家住宅、和紙の工房、酒蔵などの町の主要スポットをめぐる巡回バスを運行するとよい。インターネットでの PR も効果的だと思う。
・週末に多くの観光客が訪れるために、季節ごとの果物が取れるようにすべきである。観光に特化したまちづくりを進めていったほうがよいと思う。
・小川町には登山客が多く、ほかにない資源を持っているため、とりあえず登山客がついでに少しお金を落としていってくれるような仕組みを作ってはどうか。
・自分の地区で何かできないかと思い、槻川の土手が崩れていたのを地区の資金で修復し、土手に彼岸花を植えた。その後、県により遊歩道整備が行われた。桜と彼岸花ですごくきれいなので、町で宣伝をしていただき、もっと観光客が呼べる取り組みをしてほしい。
・また万葉集のアピールをもっとしていくべきである。
・観光には「食」も重要で、和紙と相性がよいものを考えるとよいのでは。
・商工会のフリーマーケットでカレー焼きそばが好評だった。B 級グルメも考えるとよい。ただし、実店舗で売ることが大事。

【雇用創出】

・中小企業に対し、継業支援をすることで活性化につながるのではないか。
・小川町から東京への通勤というのは厳しい。町や近隣市町で働ける場を増やせるよう企業誘致が重要で、若い人が近くで働ける環境をつくり、人口減少のカーブをゆるやかにできるとよい。
・小川町は今まで企業誘致に関心がなかった。何かあった時に困らないように、自動車関連事業だけでなく、いろんな業種を誘致したほうがよい。
・今一番必要なことは、土地の有効活用だと思う。工場誘致をしたほうがよい。
・雇用を生むためにも企業誘致について頑張るべきである。また大企業だけでなく、新規創業者に対し金利や制度融資などの支援をしていくことも必要である。
・大型の店舗や事業所が増えると小京都の雰囲気にあわない。観光のような仕事が増えていく方が町にあっている。
・固定資産税の税収効果はあると思うが、工場立地が町民の雇用にどれだけ結びつくかは疑問で、むしろ観光や町の産業で雇用を創出していく方が大事だと思う。

・企業誘致というよりも、医療や有機農業等、町の特色ある産業を活かしていく方がよいと思う。

【町のＰＲ】

・町の人が町に自信を持っていないことが問題。親世代が町には何もないと言うと子世代にも伝わってしまう。町民意識を変えてもらい、自信をもって口コミ等で情報発信をするようになってもらえるとよい。
・町の文化財やその他の良さをＰＲするために、ハイキングイベントや自転車イベントなどを開いてはどうか。
・七夕祭りは多くの観光客がくるため、七夕祭りの際に和紙をＰＲする機会にしてはどうか。
・小川町は川がよいと言われることがある。川を PR してはどうか。
・9 月に東松山でやきとりんぴっくが開催される。和紙でもそのような全国の和紙が集まるイベントを開催できると PR になると思う。
・アニメ「のんのんびより」を町の PR に使えるとよい。
・工芸品などにしても作家を使うなどして、デザイン性と発信性を向上したほうがよい。
・和紙マラソンはよいと思うが、参加賞のＴシャツのデザインが微妙である。みんながほしいと思えるデザインになるように、若者に書いてもらうなどしてはどうか。
・ふるさと納税の品物をもっと盛りだくさんにすれば、もっとふるさと納税をする人が増え税収アップにつながるのではないか。
・外国人への PR にはインターネット、SNS が効果的である。

【商店街、町並み、景観】

・商店街は点だとお金は落ちない。例えば、間伐材や和紙をつかって通り側をデザインして町並みづくりをしてはどうか。また、ハイキングやサイクリングで訪れる人も多いので、店にサイクルスタンドを置く工夫もあるとよい。
・五感で町並みを感じられる商店街となるよう、建物の外観と内装のデザインを変えるリノベーションをしていってはどうか。デザインのルールを商店街で決めていく方法もある。
・通りを一本入ると、昭和の雰囲気が残る町並みがあるため、この町並みをうまく生かして、例えばカレー横丁といったようなものができれば面白いのではないか。
・駅前にある産婦人科がピンクで景観的によくない。もっと景観に気を配るべきである。

テーマ③　結婚・出産・子育てをしやすい環境づくりのあり方

（児童福祉･学校教育／若い人たちの定住促進／小川町で生活･仕事を希望する人たちの移住促進…など）

【結婚・出産・子育て】

・人口減少に対しては未婚者の解消と結婚促進、このことを町でやっていただきたいなと思う。結婚出産・子育て支援として、補助金や手伝いなどのボランティアによる支援をやっていくべき。元気な高齢者が多いので、子育て支援や学童の支援などを行うとよいのではないか。
・小川町だけでなく、周辺の自治体も交えて婚活などの支援が出きればよいと思う。
・元町議の人で仲人を行っている方がいる。今は個人でやっているが、元町議ということを利用して、グループを作って積極的にネットワークを広げてやるといいのではないか。

・結婚、出産、子育てをしやすい環境をつくらないと定住してもらえないと思うため、保健センター等の指導やアドバイスをなるべく手厚くして、出産しやすいまちづくりが必要だと思う。
・他都市の事例で、出産・子育ての手続き等で役場の窓口に行った際に、色々回らなくて１つの窓口で済むワンストップ窓口などがある。
・学童保育の経営が厳しく仕事に専念できない。
・人口減少の主な原因は若い世代の流出、特に若い女性の流出が原因だと思うため、対策が必要である。他都市で、その市町村の観光業に若い女性を雇用する事例がある。町は、「婚活支援」「子育て支援」「教育支援」「雇用支援」「移住支援」をベースに考えたほうがよい。子育てしている共働き世代を取り込むことが大切である。

【通勤支援】

・東武東上線の TJ ライナーが来年の 3 月からは朝も走らせるという計画があるため、定住支援として「遠距離通勤への援助」をやるべきだと思う。
・遠距離通勤について、補助を出したらよいと思う。

【定住】

・定住促進という観点で、小川町で住む家を低費用で提供するなどはやっていないのか。
・空き家の活用について、これから考えていく必要がある。人が住んでいない家は長持ちせず、災害等で倒れる恐れもあるため、対策を考えたほうがよい。

テーマ④　安心な暮らしを実現するためのまちづくりのあり方

（防災対策／交通安全／治安…など）

【美化、防災、防犯、地域活動】

・彼岸花を咲かせるために、地区で美化作業を行っており、老人から子供まで 100 人ほど参加している。20 年ほど続いており、人はいいなと思ったことは、やらされなくても自発的に参加してくれる。そういうことが大事である。
・防災対策について、小川町は利根川から水をひいているけど、もし地震でパイプが切れたら水が来ないことが考えられ、飲み水確保、トイレ難民対策が必要である。そのため、自分たちの地域は自分たちで守るための防災訓練を実施している。実施要領ＤＶＤも作成しているので、必要があれば提供することも可能である。
・現在、町内でパトロール隊が活躍しているおかげで安心感がある。ただ、パトロール隊が高齢になっており負担があるようだ。また、近頃の子どもたちはパトロールしていただいていることにありがたみを感じなくなっている。
・自然環境はすごく良いが、子ども達が安心して遊べる場所がすごく少ない。道路や歩道が整備されていない場所もあり、子どもたちが自転車で通ったりするのがすごく不安である。安心・安全のために、防犯カメラの設置なども必要があるのではないか。子どもが過ごしやすい環境は、高齢者も過ごしやすい環境である。一体的に考えるべきである。
・治安について、見回りが大切である。
・東小川ではＬＥＤの街灯を増やしたら空き巣が減り防犯につながった。

小川町第５次総合振興計画審議会、小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会
第２回合同会議　出欠簿

No.	氏　名	役　　職　　等	出欠
1	小久保　文　雄	小川町商工会長	○
2	佐　藤　守　朗	埼玉中央農業協同組合理事	○
3	山　岸　幸　男	小川町区長会会長	○
4	江　原　隆　二	比企西部地区労働組合協議会長	○
5	村　上　紀　子	小川町児童・民生委員協議会長	○
6	岸　田　直　幸	小川町社会福祉協議会事務局次長	○
7	柳　瀬　安　代	小川保育園保護者会長	○
8	鈴　木　健　史	埼玉県川越比企地域振興センター東松山事務所長	○
9	斎　藤　　透	埼玉県寄居林業事務所長	○
１０	髙　橋　昭　弘	小川警察署長	×
１１	山　口　明　夫	小川消防署長	×
１２	瀬　川　　豊	医師	×
１３	松　本　正　生	埼玉大学社会調査研究センター長（経済学部　教授）	×
１４	吉　田　　稔	文化財保護委員長	○
１５	服　部　昌　史	NPO法人 たすけあいほっとライフ小川代表	○
１６	安　藤　和　広	NPO法人 霜里学校代表	○
１７	大　塚　頼　司	町民代表	○
１８	柿　間　栄　二	町民代表	○
１９	曽　根　美栄子	町民代表	○
２０	髙　橋　功　人	町民代表	×
２１	小 野 田　　明	埼玉縣信用金庫小川支店次長	○
２２	安　藤　憲　成	埼玉りそな銀行小川支店長	○
２３	村　田　静　司	武蔵野銀行小川支店長	○
２４	浦　部　充　弘	東和銀行小川支店長	×
２５	杉　山　隆　二	埼玉新聞特別編集委員	×
	福　田　弘　昌	副町長	○
	山　﨑　浩　司	政策推進課長	○
	矢　島　富　男	政策推進課主幹	×
	粟 生 田 寿 彦	政策推進課主席主査	○
	蜂　谷　信　子	政策推進課主査	○
	石　川　俊　一	政策推進課主任	○